

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成14年12月調査分)

調査の目的

- ・経済の第一線で働いている人々から、景気に関する生の情報を得る。
- ・その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表する。
- ・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となる。

調査の概要

- ・調査客体数…県内各地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名。
- ・調査内容…景気の現状、先行き判断とその判断理由。
- ・調査時期…四半期（6、9、12、3月）ごとに実施し、翌月公表。

結果の概要（回答率91.0%）

1. 県全体の状況

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは38.5であり、9月試行分（21.9）と比べて16.6ポイント上回り、業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。しかしながら、横這いを表す50は9月試行分に引き続き下回っており、ウォッチャーは、景気の現状を厳しく判断している。

主な判断理由

- ・客数は多少増加したが、客単価の低下により、結果的に相殺されてしまっている。（県北=衣料品専門店）
- ・顧客は見積単価の再提出等、価格に対してさらに敏感になってきている。（県央=非製造業（広告代理業））
- ・年末の季節要因で一時的に売上増があったものの、依然として厳しい状況である。（鹿行=人材派遣業）

景気の現状判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	21.9	38.5
家計動向関連	20.8	36.3
小売関連	23.5	30.4
飲食関連	8.8	44.4
サービス関連	20.5	40.9
住宅関連	25.0	10.0
企業動向関連	23.2	41.5
農林水産業	21.9	43.8
製造業	25.0	46.6
非製造業	20.7	33.3
雇用関連	26.1	43.5

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	3.3%
やや良くなっている	5.7%	14.7%
変わらない	15.5%	32.6%
やや悪くなっている	39.6%	31.5%
悪くなっている	39.2%	17.9%

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは34.9であり、9月試行分(41.2)と比べて6.3ポイント下回った。業種別にみてみると、雇用関連が同じDI値になったものの、家計動向関連及び企業動向関連が9月試行分を下回った。なお、横這いを表す50は9月試行分に引続き下回っており、ウォッチャーは、景気の先行きをこれまで以上に厳しいと見込んでいる。

主な判断理由

- ・販売価格の低下がさらに続くと思われる。また購買意欲の冷え込みの影響も受ける。(県北=製造業(食品))
- ・地元企業の撤退による昼間人口の減少はかなりの痛手である。(県南=洋食食堂)
- ・低料金の店舗が増加している。先行きが見えない状態である。(県西=理・美容店)

景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	41.2	34.9
家計動向関連	40.8	34.1
小売関連	40.8	32.7
飲食関連	30.9	34.7
サービス関連	42.8	35.6
住宅関連	40.6	25.0
企業動向関連	42.7	35.4
農林水産業	34.4	40.6
製造業	44.0	37.5
非製造業	42.9	30.8
雇用関連	39.1	39.1

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	1.1%	1.1%
やや良くなっている	8.9%	7.3%
変わらない	53.9%	40.3%
やや悪くなっている	26.2%	32.6%
悪くなっている	9.9%	18.7%

2. 地域別の状況

地域別の状況一覧

	景気の現状判断DI	景気の先行き判断DI
茨城県	38.5	34.9
県北地域	30.3	31.6
県央地域	40.6	38.8
鹿行地域	38.4	35.2
県南地域	40.1	34.0
県西地域	43.4	34.9

■調査から

県北地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは30.3であり、9月試行分（18.0）と比べて12.3ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。なお、DI値30.3は地域別DI値が全県を通じて最も低かった。

主な判断理由

- ・七五三や結婚シーズンで売上げが増加した。（理・美容店）
- ・受注の増加は一過性であり、すぐ元に戻るか減少となる。（製造業（電気機械器具））

景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年9月 (試行分)	平成14年 12月
合計		18.0	30.3
家計動向関連		18.6	28.6
企業動向関連		13.2	30.9
雇用関連		30.0	40.0

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	0.0%
やや良くなっている	3.5%	8.8%
変わらない	12.3%	33.3%
やや悪くなっている	36.8%	28.1%
悪くなっている	47.4%	29.8%

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは31.6であり、9月試行分（33.8）と比べて2.2ポイント下回った。業種別にみると、企業動向関連及び雇用関連が9月試行分を上回ったものの、家計動向関連が9月試行分を下回り、全体値を押し下げた。

主な判断理由

- ・酒類の消費人口の減少があり、特に高齢者の消費量が少ない。（小売店（酒類））
- ・サバ・イワシ漁に復活の動きがある。（農林水産業関係者）

景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計		33.8	31.6
家計動向関連		35.7	27.1
企業動向関連		30.9	38.2
雇用関連		30.0	40.0

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	1.8%
やや良くなっている	7.0%	1.8%
変わらない	36.8%	38.6%
やや悪くなっている	40.4%	36.8%
悪くなっている	15.8%	21.1%

県央地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは40.6であり、9月試行分（24.6）と比べて16.0ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。

主な判断理由

- ・ボーナスが支給されたためか夜の繁華街の人出が多い。また飲食店からの依頼も増加している。（タクシー運転手）
- ・顧客は見積単価の再提出等、価格に対してさらに敏感になってきている。（非製造業（広告代理業））

景気の現状判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	24.6	40.6
家計動向関連	24.3	40.3
企業動向関連	25.0	42.2
雇用関連	25.0	37.5

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	3.6%
やや良くなっている	5.4%	17.9%
変わらない	17.9%	30.4%
やや悪くなっている	46.4%	33.9%
悪くなっている	30.4%	14.3%

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは38.8であり、地域別DI値が全県を通じて最も高かったものの、9月試行分（41.8）と比べて3.0ポイント下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を下回り、特に雇用関連は18.8と全体値38.8と比べてもかなり低かった。

主な判断理由

- ・余分に購入しない、大量に購入しないという消費パターンが定着している。（農産物直売所）
- ・地元企業を対象にした調査からも先行き不透明感が強く感じられる。（公共職業安定所）

景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	41.8	38.8
家計動向関連	41.7	39.6
企業動向関連	46.7	42.2
雇用関連	25.0	18.8

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	0.0%
やや良くなっている	7.3%	12.5%
変わらない	60.0%	42.9%
やや悪くなっている	25.5%	32.1%
悪くなっている	7.3%	12.5%

鹿行地域**(1) 現状判断**

3か月前と比較した景気の現状判断DIは38.4であり、9月試行分（22.3）と比べて16.1ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回り、特に企業動向関連及び雇用関連のDIは20ポイントをこえる上昇となった。

主な判断理由

- ・客の購入の様子からは変化がない状況だが、若年層の買い控えが見られる。（コンビニエンスストア）
- ・外国産の輸入が制限されていることと天候不順で特に根菜類の価格が高騰している。（農林水産業関係者）

景気の現状判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	22.3	38.4
家計動向関連	22.2	33.3
企業動向関連	23.3	48.4
雇用関連	18.8	40.0

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	3.7%
やや良くなっている	5.5%	13.0%
変わらない	16.4%	37.0%
やや悪くなっている	40.0%	25.9%
悪くなっている	38.2%	20.4%

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは35.2であり、9月試行分（42.3）と比べて7.1ポイント下回った。業種別にみると、家計動向関連及び企業動向関連のDIが9月試行分を下回った。

■調査から

主な判断理由

- ・ユーザーサイドの収入減による住宅需要の低迷が見込まれる。(非製造業(不動産業))
- ・景気の先行きの不透明感は払拭できず、企業の求人数が増加するとは思えない。(民間職業紹介業)

景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	42.3	35.2
家計動向関連	45.1	33.3
企業動向関連	36.7	35.9
雇用関連	37.5	45.0

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	0.0%
やや良くなっている	9.1%	11.1%
変わらない	60.0%	40.7%
やや悪くなっている	21.8%	25.9%
悪くなっている	9.1%	22.2%

県南地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは40.1であり、9月試行分(24.6)と比べて15.5ポイント上回った。業種別にみてもと、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。

主な判断理由

- ・忘年会シーズンにより来客数が増加し、ある程度の活気があるように思われる。(洋食食堂)
- ・受注が少ないため、受注価格を落としているのが現状である。(非製造業(建設業))

景気の現状判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	24.6	40.1
家計動向関連	22.1	40.2
企業動向関連	30.9	42.2
雇用関連	20.0	31.3

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	7.5%
やや良くなっている	5.3%	13.2%
変わらない	19.3%	28.3%
やや悪くなっている	43.9%	34.0%
悪くなっている	31.6%	17.0%

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは34.0であり、9月試行分(46.5)と比べて12.5ポイント下回り、下降幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を下回り、特に企業動向関連のDIは20ポイントをこえる下降となった。

主な判断理由

- ・経費節減のためか、企業のタクシーチケット利用頻度が減少している。(タクシー運転手)
- ・不動産の流動化はストップし、消費抑制はさらに進行する。(非製造業(金融業))

景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	46.5	34.0
家計動向関連	42.1	37.1
企業動向関連	54.4	28.1
雇用関連	50.0	31.3

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	5.3%	0.0%
やや良くなっている	12.3%	5.7%
変わらない	52.6%	43.4%
やや悪くなっている	22.8%	32.1%
悪くなっている	7.0%	18.9%

県西地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは43.4であり、9月試行分（20.3）と比べて23.1ポイント上回り、地域別DI値が全県を通じて最も高く、また上昇幅が最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回り、特に雇用関連は50を大幅に上回った（65.0）。

主な判断理由

- ・大幅な売上げの減少はないが、客の来店周期が長くなっている。（理・美容店）
- ・新規求人人数が増加に転じてきている。（公共職業安定所）

景気の現状判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	20.3	43.4
家計動向関連	16.4	39.5
企業動向関連	23.6	44.1
雇用関連	35.0	65.0

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	1.9%
やや良くなっている	8.6%	20.8%
変わらない	12.1%	34.0%
やや悪くなっている	31.0%	35.8%
悪くなっている	48.3%	7.5%

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは34.9であり、9月試行分（41.8）と比べて6.9ポイント下回った。業種別にみると雇用関連DIが9月試行分を上回ったものの、家計動向関連及び企業動向関連DIが9月試行分を下回った。なお、雇用関連のDIは50を上回った（55.0）。

主な判断理由

- ・冬期はシーズンオフとなるため、売上げは減少する。（ゴルフ場）
- ・自動車メーカーの生産計画は横這いと思われる。（製造業（輸送用機械））

景気の先行き判断DI

分野	調査日時 平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
合計	41.8	34.9
家計動向関連	39.3	33.1
企業動向関連	44.4	32.4
雇用関連	50.0	55.0

回答構成比

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月
良くなっている	0.0%	3.8%
やや良くなっている	8.6%	5.7%
変わらない	60.3%	35.8%
やや悪くなっている	20.7%	35.8%
悪くなっている	10.3%	18.9%

〈参考〉 ウォッチャーの判断理由については、いばらき統計情報ネットワーク（<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/index.htm>）で閲覧できます。